

2025 年 8 月 1 日

アルー株式会社

(コード番号：7043 東証グロース)

～お悩み解決！若手の離職防止を考える～

第4回「コミュニケーション」はこの世で最も難しいこと

■何でもハラスメントになってしまう

「マルハラ」という言葉をご存じでしょうか？

最近、テレビやネットのニュースで目にするところがあるかもしれません。この言葉は、例えば「承知しました。」「よろしくお願いします。」「といった上司からのメールやメッセージの末尾に「。」が付いていると、若者は「怒っている」と受け取り、威圧感を感じるという意味です。

このような話はメディアが大げさに取り上げている部分もあるので、個人的にはそれほど真剣に受け取る必要はないと思いますが、「〇〇ハラ」を恐れて若手とのコミュニケーションを躊躇してしまう中高年の上司も少なくありません。

例えば、「君の夢は？」と聞くと「夢ハラ」になり、長々と熱く語ると「長ハラ」になるということで、管理職研修では「〇〇ハラ」にならないように「Z世代に対する正しいコミュニケーションの取り方」を皆さん知たがります。

しかし、この問題の本質は中高年のコミュニケーションの取り方が不適切であるということではありません。「コミュニケーションには正解がある」という思い込みが問題なのです。

■コミュニケーションに「正解」はない

よく「Z世代には〇〇をしなさい」とか「Z世代には〇〇を言ってはいけない」といった話がありますが、結局のところ何が正解かは「人による」というのが現実です。同じZ世代でも感情を込めない短いコミュニケーションを好む人もいれば、逆に長々と熱く語ってくれた方が良いという人もいます。

それなのに上司が「唯一の正解」を求めてしまうと、本来言うべき場面でも何も言えなくなり、仕事が前に進まないばかりか、若手との信頼関係も築けなくなります。そこで、コミュニケーションの「テクニック」に走る前に「間違いを恐れず、根気強く試行錯誤を繰り返す」という姿勢が大事になります。

一度で正解にたどり着こうとせず、「やってみないとわからない」という気持ちで発信と受信を繰り返し、少しずつお互いの理解を深めていく中で、初めてコミュニケーションは前に進みます。今回は、受信と発信のスキルを2回に分けて紹介したいと思います。

アルー株式会社 人材育成コンサルタント 孔令愚



※本内容は、「SHINKIN 情報玉手箱」(発行：東京都信用金庫協会 編集：近代セールス社)の令和6年7月号に掲載されたものです。本内容の一部または全部を許諾なく無断で複写・複製、磁気媒体・光ディスクへ入力等を行うことを禁じます。

■アルー株式会社について

アルー株式会社は、「夢が溢れる世界のために、人のあらゆる可能性を切り拓きます — all the possibilities —」という Missionのもと、『育成の成果にこだわる』ことをテーマに、人材育成支援事業を行っています。新入社員から経営者層までの幅広いレイヤーに対する階層別研修の実施をはじめ、グローバル人材や DX 人材の育成などのテーマ別教育プログラムの提供、さらにはラーニングマネジメントシステム「etudes」を用いた e ラーニングの提供などを通して、組織や個人の成長を人材育成の側面から支援しています。顧客ごとに個別最適化されたソリューションの提案および実施によって顧客企業の多様な課題を解決することを目指し、グループ全体で事業に取り組んでいます。

<https://www.alue.co.jp/>

■本件に関するお問い合わせ先

- ・アルー株式会社 コーポレート部
- ・ホームページお問い合わせフォーム

Tel 03-6268-9791

<https://mkt.alue.co.jp/l/882713/2021-03-18/xjpp>